

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 吉田 輝彦

本研究は重症患者に高頻度に合併する急性腎障害の中でも最重症の持続的腎代替療法を要する患者を対象に、持続的腎代替療法離脱期に焦点をあて予後予測因子を明らかにするために行われた後ろ向き・前向きの観察研究からなり、下記の結果を得ている。

1. 後ろ向き観察研究の結果から、持続的腎代替療法離脱期の尿量と糸球体濾過量の動的指標である **Kinetic eGFR** の組み合わせが、精度高く短期予後指標としての持続的腎代替療法離脱を予測した。
2. 後ろ向き観察研究の結果の検証を企図した前向き観察研究の結果から、持続的腎代替療法離脱の予測因子としては腎機能マーカーとしての尿量が最も有用であることが確認された。
3. 持続的腎代替療法患者の中長期予後指標である 90 日主要腎イベント (**Major Adverse Kidney Events, MAKES**) の予測因子としては腎組織障害マーカーである尿好中球ゼラチナーゼ関連リポカリン (**Neutrophil Gelatinase-Associated Lipocalin, NGAL**) が有用である可能性が示された。
4. 急性腎障害における腎機能マーカーと腎組織障害マーカーが異なる特性を持っており、異なる予後を予測する可能性を示し、持続的腎代替療法離脱期の予後予測に有用性が期待される結果を示した。

以上、本論文は急性腎障害患者の持続的腎代替療法の離脱期における予後予測因子を検討した結果、持続的腎代替療法離脱という短期予後指標と 90 日主要腎イベントという中長期予後指標に関して異なる因子が予測因子となることを明らかにした。本研究はこれまで報告の乏しい最重症急性腎障害の持続的腎代替療法離脱期の予後予測に貢献する臨床的意義の高いものであり、学位の授与に値するものと考えられる。